

Newsletter

第1号 Vol.1

グローバルインターンシップ推進拠点の形成 (G.ecboプログラム)
10年後の自分を探そう 世界と出会うインターンシップ

発行日: 2008年7月

お知らせ:

- 2008年度夏期派遣学生決定しました。
- 2007年度冬期派遣学生報告会開催しました。
- 留学生国内インターンシップ派遣学生決定しました。
- 6月25日(水)18:00からリスク管理セミナーを開催しました。

目次:

プログラム概要	1
夏期派遣学生の決定報告	1
プログラム内容	2
活動実施報告	3
2007年度冬期派遣学生帰国レポート	4
雑誌掲載	7
活動予定	8

G.ecboプログラム概要

環境、安全、貧困などの問題に対して国や地域の境界を超えた対応が求められる今日では、専門分野を問わず、国際的視野のもとにコミュニケーション力、問題解決力、倫理観などを持ち合わせた人材の育成が求められています。

広島大学は2005年に新国際戦略を策定し、教育研究活動の国際化を実践しています。例えば、大学院教育においては、各研究科の教育理念のもとに海外の国際機関等へ学生を派遣し、実践的研究者や高度専門職業人の育成に取り組んできた多くの実績があります。

本大学院教育改革支援プログラム「グローバルインターンシップ推進拠点の形成」は、各研究科個々の教育実績を広島大学の大学院教育全体へと拡張し、大学院教育の体系化、高度化を試みるプログラムです。具体的には、「グローバルインターンシップ推進拠点 (G.ecboプログラム拠点)」を大学院課程会議のもとに設置し、3種類のインターンシップ、□海外インターンシップ □国内インターンシップ □第三国インターンシップを行うことで教育の国際化を実践します。

本教育プログラムの特徴は、インターンシップの前後に行う事前研修、事後研修のためのカリキュラムを充実させる点とともに、受け入れ機関との交渉や危機管理体制など、全学レベルで対処すべき機能をG.ecboプログラム拠点に集積させて、効率的で体系的な大学院教育プログラムを構築する点にあります。

大学院課程会議と連携のもとに、2007年度からの3年間で、既存の学問領域に縛られない多様な分野の課題、新しい課題に適応できる研究者の輩出、国際協力・国際援助の第一線をリードする専門家の養成と、世界中から集まる留学生や研修生の高度専門職業人としての育成を目指しています。



G.ecboプログラム拠点委員長
藤原章正

2008年度夏期派遣学生を決定しました!

4月に今年度夏期派遣学生募集を行い、G.ecboプログラム派遣学生として11名の学生がこの夏インターンとして海外へ派遣されることが決まりました。

すでに外国語教育研究センターでの英語研修は授業が始まり、PPTトレーニングの事前研修も着々と準備が進んでいます。爽り多いインターンシップとなるように頑張っています。

【2008年度G.ecboプログラム派遣学生】

小西学(先端物質科学研究科) 高岡勇輝(先端物質科学研究科) 難波一宏(国際協力研究科) 村山直輝(国際協力研究科) 山口真人(国際協力研究科) 山下早紀子(生物圏科学研究科) 吉田絵美(生物圏研究科) Balasooriya(国際協力研究科) Phetkeo Poumanyvon(国際協力研究科) 金本和也(国際協力研究科) 工学研究科学生2名 計11名

FLARE英語トレーニング

G.ecboプログラムでは、事前研修の一つとして広島大学外国語教育研究センターが主催する英語研修プログラムの履修を義務づけています。この英語トレーニングはインターンシップ成功の大きな鍵となる語学力は言うまでもなく、発表技術の習得など将来に向けた大きなステップとなっています。

推奨コース:Power Point Oral Presentations in English

このコースはプレゼンテーションの仕方を習得することを目標としている。毎週、興味のある分野や研究内容について3分間のプレゼンを準備し発表している。

このコースのほかにも発音やTOEIC対策など各種魅力的なコースがあり、英語力向上のため参加しているG.ecboプログラム履修生も多い。

外国語教育研究センター：<http://www.hiroshima-u.ac.jp/flare/>(日本語のみ)



活動報告 2008年度第1四半期 (4月-6月)

4月1日

2008年度夏期派遣学生の公募を開始しました。

4月3日

募集説明会を開催しました。

4月21日

海外インターンシップ公募を締切りました。

5月1日

FLARE英語研修が始まりました。

5月2日

夏期派遣選考面接を行いました。
12名の派遣学生が選ばれました。

5月15日

i-ECBO(国際協力研究科)幹事会が開催されました。

5月20日

2007年度冬期派遣学生帰国報告会を行いました。

5月28日

第1回英語プレゼンテーション研修会を行いました。

5月29日

国内インターンシップ面接選考を行いました。

6月18日

第2回英語プレゼンテーション研修会を行いました。

6月25日

リスク管理セミナーを開催しました。



募集説明会:IDEC大会議室

予想を上回る人数の参加者でインターンシップに関する学生の関心が高くなっていると実感しました。



2007年度冬期派遣学生帰国報告会 参加者31名

冬期派遣者から5名の発表が行われ、修士論文や博士論文につながる興味深い内容の研修報告もありました。充実したインターンシップの様子が伺える内容で

2007年度冬期派遣学生 帰国レポート

Onsite company	Grameen Bank and Grameen Shakti, Bangladesh
Period of internship	17.Feb.2008 – 13.Mar.2008.
Field	<ul style="list-style-type: none"> • Microcredit and Renewable Energy (Karen) • Analysis of the Impact of the Grameen Education Programs of Grameen Bank on women's Socio-Economic Development in Rural Areas of Bangladesh (Sultana)

Karen Talita Tanaka

Impression of Internship

The internship program at Grameen is differentiated. On one hand, it is not a typical internship program where there is a plan or expected results. On the other hand, the interns have the flexibility to learn and be exposed to Grameen as they wish. It does give the interns the freedom to work at their own pace and experience the sister companies as one sees fit.

The success of the internship depends only on the internee. The coordinators at Grameen will help with everything one needs, but the main decisions are on the internees. themselves.

Advice to next internship student

Be proactive when in Bangladesh. The internship at Grameen has no pre-schedule. You should make your own schedule, decide which company you want to visit or what kind of branch you want to stay in, when you want to do it and so on. So, in other words, the success or failure of the program relies entirely on you. Take this advantage and make the best out of it.

It will be an unforgettable experience that will bring a lot of new ideas to your studies in Japan and to your view of the world.



ノーベル平和賞受賞ユヌス氏と
With Prof. Yunus, awarded the
Nobel peace prize for 2006

Sultana Rebeka

Impression of Internship

To achieve the national goal many NGOs have been working in Bangladesh to development women and children life in rural areas of Bangladesh. Grameen Bank is one of them. I have acquired lot of knowledge and experiences from the Internship program.

Advice to next internship student

Grameen Bank Internship program is very much flexible to students. It depends on internee's own choice, field, and selected areas. So it is better to prepare Title of the problem, fields, and data collection areas in Grameen Bank's company.



研修中:子供とのひととき
A moment during the field re-
search

<Venue of Internship>

University of the Philippines
National Institute for Science and
Mathematics Education Development
(UP-NISMED)

<Duration of Internship>

21 January to 15 February 2008

UP-NISMED

The National Institute for Science and Mathematics Education Development is an extension arm of the University of the Philippines. Please visit their web site: <http://www.upd.edu.ph/~ismed/index.htm>

高松 森一郎 Shinichiro Takamatsu

Impression of Internship

The program schedule was informative and well designed. I joined the training program as much as possible. As for knowledge part, some of the contents were new to me, such as Assessment Tasks and Rubrics. According to the intern's schedule, interns were supposed to assist NISMED staff, but I participated as one of the trainees.

I learned lots of things not only in the training program but also during the time we stayed together, such as merienda (snacks between classes), supper, fieldtrip, and daily conversation. All 40 Kenyans were district trainers and have more than ten-year teaching experiences, we shared information about situation in education and common sense we have.



授業風景 At classroom

高松さんの詳しい体験談はhttp://www.hiroshima-u.ac.jp/gecbo/p_fc2f6d.htmlに掲載しています。

SHEIKH ASADULLAH

Impression of Internship

This internship had extended my knowledge and concept in Secondary level Mathematics Content, teaching and learning strategies which broaden my possibility and experience. This experience and experiences is obvious to be utilized in my academical research of my master's course in Hiroshima University. The knowledge and experiences will work as the milestone in my research work.



授業風景 At classroom

Advice to next internship student

- Try to arrive in UP NISMED at least two days earlier the training starts.
- Try to build up good relation with respective NISMED group and the trainees of the program in order to share knowledge and experiences.
- Try to attend all the sessions of the training in order to gather new knowledge and concepts.
- Prepare a Research Design before going for Internship.



ウェルカムパーティーにて
At the welcome reception

国内インターンシップ派遣学生が決定しました

G.ecboプログラムでは下記の3種類のインターンシップを行うことで教育の国際化を実践しています。

- 海外インターンシップ・・・日本人学生を途上国等の国際機関、日系企業、協定大学等に派遣するもの
- 国内インターンシップ・・・留学生を日本国内の企業、国際機関等へ派遣するもの
- 第三国インターンシップ・・・途上国からの研修生を海外(第三国)に招いて実施する研修の現場へ、日本人および留学生を派遣するもの

今年度より広島大学大学院在籍中の留学生を対象として国内インターンシップの実施を拡充いたしました。日本国内企業、特に日本企業での経験は留学生にとっては言葉、日本式ビジネスマナー等の違いから難しい挑戦になりますが、日本のビジネス社会を経験出来るまたとない機会ということもあり、応募した留学生の意欲も高く、4名の派遣学生が決定いたしました。

今年度派遣受入企業:株式会社サタケ(本社:東広島市)

【2008年度国内インターンシップ派遣学生】

Shwe Zin Ko (ミャンマー出身・国際協力研究科開発政策専攻)

張 前 (中国出身・国際協力研究科平和共生専攻)

Juraev Islomjon (ウズベキスタン出身・国際協力研究科・教育文化専攻)

Shams Shamsul Hadi (アフガニスタン出身・国際協力研究科・研究生)

平成20年度 第1回リスク管理セミナーを開催しました

昨今、インターンシップでの研修に限らず海外へ渡航する学生も多くなり、本プログラムでは海外でのリスクに対する管理能力の形成をめざして、リスク管理セミナーを派遣に合わせて開催しております。

今年度の夏期派遣学生を対象としたリスク管理セミナーは、6/25(水)18:00より国際協力研究科大会議室において開催いたしました。教職員に加え、学内から2学部4研究科より合計64名の参加がありました。

海外でのリスクは健康面の不安だけではなく、思いがけないアクシデントや犯罪に巻き込まれることも視野に入れて、どのように対処すべきかを派遣学生各々が留意しなければリスクを防ぐことは不可能です。安全かつ有意義なインターンシップとするためにも、リスクに対する個々の自己管理能力を高めることが重要な成功要因の一つとなってきました。リスクを未然に防ぐには、またリスクが発生したときにはどのようにダメージを最小限に出来るか対処できる能力は欠かせない能力と考えています。

また、今回は海外派遣時のヘルスマネジメントについて保健管理センターの日山医師より「健康管理・感染症について」の講義を受けました。研究科や学部ゼミでのプログラムで海外へ研修を予定している学生の参加も多く見られ、リスク管理が重要視されている現況を示していました。

海外インターンシップ
リスク管理セミナー

【日時】
6/25(水) 18:00-19:30

【場所】
大学院国際協力研究科大会議室

【対象】
海外インターンシップに参加される学生
海外に渡航予定の学生 他

【内容】
・渡航について全般的な注意
・外務省ビザの「お任せがゆわられるのか」
・A1(海外旅行保険)について
・質疑応答

http://home.hiroshima-u.ac.jp/iecb/index.htm
http://www.hiroshima-u.ac.jp/iecb/index.html
お問合せ: 国際協力研究科G.ecboプログラム企画事務局A-ECBO事務局
〒730-8580
iecb@hiroshima-u.ac.jp



参加者：64名

「留学交流」にOB体験談が掲載されました!!



岡 英紀さん
ベトナム・
アルメック
2007年夏期派遣

日本学生支援機構 (JASSO) の月刊誌【留学交流】2008年4月号に、2名のインターンシップ派遣学生記事が掲載されました。
※全文はG.ecbo HPにて掲載しております。

谷口万里子さん
バングラデシュ
農村電化事業協会
(NRECA)
2008年3月派遣



谷口さん帰国報告書レポート

3週間というバングラデシュでの滞在は、あっという間でとても中身の濃いものでした。
今回は2度目のバングラデシュ訪問ということで、前回よりも緊張や不安の度合いは少なく、気持ちにも少し余裕があったように感じました。また、今回は主にダッカでの研修であったが、今回は農村調査を目的としており、ダッカとはまた違う環境に行けるということに行く前から期待でいっぱいでした。
バングラデシュに到着した次の日に、1年ぶりに受け入れ先のNRECAのオフィスに行くと、前回もお世話になったスタッフの方々が私を温かく出迎えてくれました。1週間目はとにかく農村調査の準備でアンケートの質問項目の最終チェックやベンガル語への翻訳、そして印刷など何かと慌しく過ごしていました。1週目の終わりには最初の農村調査、2日目にも2度目の農村調査とアンケート結果の入力など時間があっという間に過ぎていきました。今回の農村調査に関しては、NRECAのスタッフの方々や農村調査に協力くださった多くの関係者の方々に感謝の意を表したいと思います。NRECAのチームリーダーであるJames M. Ford氏は、調査がスムーズに進行できるように事前に私が農村に行くことを関係機関に連絡をしてくださっていました。また、NRECAのスタッフのMd. Maruf Hasan Bhuiyan氏は農村と一緒にいき、インタビュアーへの説明や実際に農民へのアンケートも手伝ってくださいました。また、休日には貴重な時間を割いてガイドとしてダッカ市内を案内してくださいました。他にもNRECAのスタッフの方々には私の体調を気遣ってもらったり、おいしい紅茶をいつも用意してくださったりお世話になりました。また、農村では人々からとても温かい歓迎を受け、バングラデシュ人のもてなしの心に感動しました。
多くの方々の協力や支援があって、今回の研修も無事に終わることができました。バングラデシュがさらに身近な国になり、ますます好きになりました。また、勤勉な態度や家族への愛情など学んだことが多くありました。ここで感じたことや得たことを忘れずに、これからの人生に活かしていきたいです。

2008年度第2・3四半期 活動予定

*第3回英語プレゼンテーション研修を行います。

(7月9日)

*インターンシップ派遣(8月/9月)

*国内インターンシップ派遣実施(8月中旬:株式会社サタケ/東広島市)

*海外インターンシップ先教員訪問

*冬期派遣学生募集・選考審査(9月)

*冬期派遣学生ガイダンス・事前研修開始

Explore your future through Global Internship. Join the G.ecbo Program!



広島大学大学院国際協力研究科

〒739-8529 広島県東広島市鏡山1-5-1

電話 082 (424) 6950

FAX 082 (424) 6904

Email: iecbo@hiroshima-u.ac.jp



2008年度TA/RAの紹介

本プログラム・フォローアップ教育の一環として、過去にインターンシップに参加した学生をティーチングアシスタント(TA)/リサーチアシスタント(RA)として雇用しています。

自らの経験知を各研究科の後輩へ引継ぎ、事前・事後研究および海外インターンシップの相談役を務めるなど、G.ecboプログラムを蔭で支えています。



力石 真 (博士課程後期2年)

国際協力研究科開発技術専攻
2005年度派遣(インドネシア)

私は、2005年に、インドネシアにある日本工営マカッサル事務所において一ヶ月間のインターンシップを体験しました。そこでの経験は非常に新鮮かつ刺激的なものでしたので、TAとして再びECBOプログラムと関わらせて頂けることは、私にとって非常に幸いです。私自身も楽しみつつ、後輩達にも行ってよかったと思ってもらえるよう、精一杯サポートしていきたいと思っています。



谷口 万里子 (博士課程後期3年)

国際協力研究科開発政策専攻
2006年度・2007年度冬期派遣(バングラデシュ)

私は、バングラデシュで農村電化事業に関わるインターンを二度経験しました。異国での生活は私の人生観を変え、自分の将来を考えるととても良い機会となりました。インターンで学んだことを後輩たちと共有し、彼らのインターンが有意義なものになるようにTAとしてサポートしていきたいと思っています。

事務局編集後記

記念すべきG.ecboニュースレター第1号をお届けいたします。大学院教育改革支援プログラムが採択されて派遣された学生たちの声を少しでも多くの方々へ届けることが出来ればとの思いで制作いたしました。彼ら彼女たちがこの経験を生かして将来国際協力分野だけでなく様々な分野での活躍してくれることを期待してやみません。

次号ではいま事前研修で四苦八苦している夏期派遣学生たちの体験談をお届けする予定です。(G.ecbo事務局)

次号予告

目次:

- * 夏期派遣学生の報告
- * 体験談レポート
- * 国内インターンシップ報告
- * 冬期派遣学生選考結果
- * ECBO修了生からの声
- * 派遣先企業からの声